

団体名 岐阜キッズな（絆）支援室

見守り活動のタイトル：

孤独・孤立を防ぎ、小学生～大人まで世帯丸ごと繋がり続ける見守り活動

キャッチコピー

24時間365日 地域でよりそい支える見守り

代表 若岡 ます美

住所 岐阜市神田町6-24（円徳寺内）

連絡先 mwakaoo2@gmail.com

ウェブサイト：<https://www.facebook.com/gifu.kidsna/>

<https://gkidssien.globo.com>

団体活動開始：2012年6月



見守り活動の概要

- ①学習支援「てらこや無償塾」
- ②子ども食堂「てらこや子ども食堂」
- ③アウトリーチ型訪問支援
- ④食料支援・フードパントリー
- ⑤オンライン個別学習支援
- ⑥24時間SOS電話相談
- ⑦「岐阜市子ども見守り宅食事業」：ぎふ学習支援ネットワークとして
- ⑧「よりそいステーション事業」：よりそいネットワークぎふとして



見守りエピソード/ストーリー

- ①毎週の「てらこや無償塾」「子ども食堂」を実施して12年目になります。寄り添い型学習支援で、子どもとスタッフが1対1で学習支援支援をしています。そのため、子ども達が「勉強が分からない」という相談だけでなく「学校に行きたくない」「いじめられた」「お腹空いた（昨日から食べていない）」「親にたたかれた」「家出したい」「リスカした」「死にたい」等、学校や家庭や自身に関する深刻な相談も寄せられます。子どもの声を聞き、受け止め、即時に対応をします。
- ②そうした中で、**アウトリーチ型訪問支援**も行い、**家庭に食糧を届け**ながら、子どもを見守ります。保護者からも、「いつも相談できるのでありがたい」「見守ってもらっている安心感がある」「生活が苦しいので、食糧支援がとても助かる」等、好意的感想が寄せられます。
- ③**24時間SOS電話相談**も、深夜に「助けて」「家出した」等の深刻な相談が寄せられ、相談機関と連携しながら子どもの安全を見守っています。セーフティネットの役割も果たしています。

活動写真



見守り活動のポイント

- ・子どもや保護者の顔を見て、声を聴き、受け止め、寄り添い支援に心がける。
- ・家庭生活全般を見守り、子ども達の背後にある困難などを理解する。
- ・見守りから「困ったら何でも相談できる」関係づくりへ。



見守り活動をはじめた背景

【初めは東日本大震災の支援から】

2011年の東日本大震災後、岐阜県内にも400人以上の避難者がいた。その子ども達は、突然の大震災による避難で、家族や友達とも別れ、言葉も環境も異なる地で、多大なるストレスを抱えて笑顔もなかった。保護者も、突然の避難で仕事も住居も替わるにより生活困窮に陥っていた。その子ども達や保護者を支えようと、2012年から毎週の見守りと支援が必要と感じ「てらこや無償塾」「子ども食堂」「食糧支援」「生活相談」「訪問支援」を始めた。同時に、岐阜市内の一人親等の子ども達の支援も始め、以来11年続いている。

【学習支援ネットワークとして一人親等の生活困窮世帯の学習支援を岐阜市と委託契約】

2015年に生活困窮者自立支援法ができ、子どもの学習支援が任意事業として実施できるようになった。思いを同じくして岐阜市内で、生活困窮世帯への無償の学習支援をしていた7団体と連携して、市内で月～土曜日まで毎日どこかで子どもの学習支援室を開き、見守りと支援ができるようになった。

【岐阜市子ども見守り宅食事業へと発展】

2020年の新型コロナウイルスのまん延により、子どもの見守りの機会が減少したことから、厚労省の「支援対象児見守り強化事業」を岐阜市も実施することになった。これまでの見守り支援に実績のあった当団体（ぎふ学習支援ネットワーク）と事業契約を結んだ。これにより、要対協などと連携し、市内全域の見守りの必要な家庭にお弁当を届けながら見守ることができるようになった。

対象／頻度／内容

（1）学習支援「てらこや無償塾」・子ども食堂「てらこや子ども食堂」その他

- 対象者：小学生～高校生・大学生まで、およびその保護者
- 対象世帯：生活困窮世帯・一人親世帯・外国籍保護者世帯・障がい児等（現在は60世帯120人）
- 場所：円徳寺（岐阜市神田町）
- 頻度：毎週土曜日
- 内容：学習支援・子ども食堂・食糧支援・相談事業・制服や生活品の提供・奨学金給付等

（2）アウトリーチ型訪問支援・食料支援・フードパントリー

- 対象者：小学生～高校生・大学生まで、およびその保護者
- 対象世帯：（1）と同じ
- 場所：円徳寺から各家庭へ
- 頻度：必要に応じて（昨年度は毎月第4土曜日は年間を通して一斉に実施）

（3）オンライン個別学習支援・24時間SOS電話相談

- 対象者：小学生～高校生・大学生まで、およびその保護者
- 対象世帯：（1）と同じ
- 頻度：必要に応じて通年実施

（4）「岐阜市子ども見守り宅食事業」（ぎふ学習支援ネットワークとして）

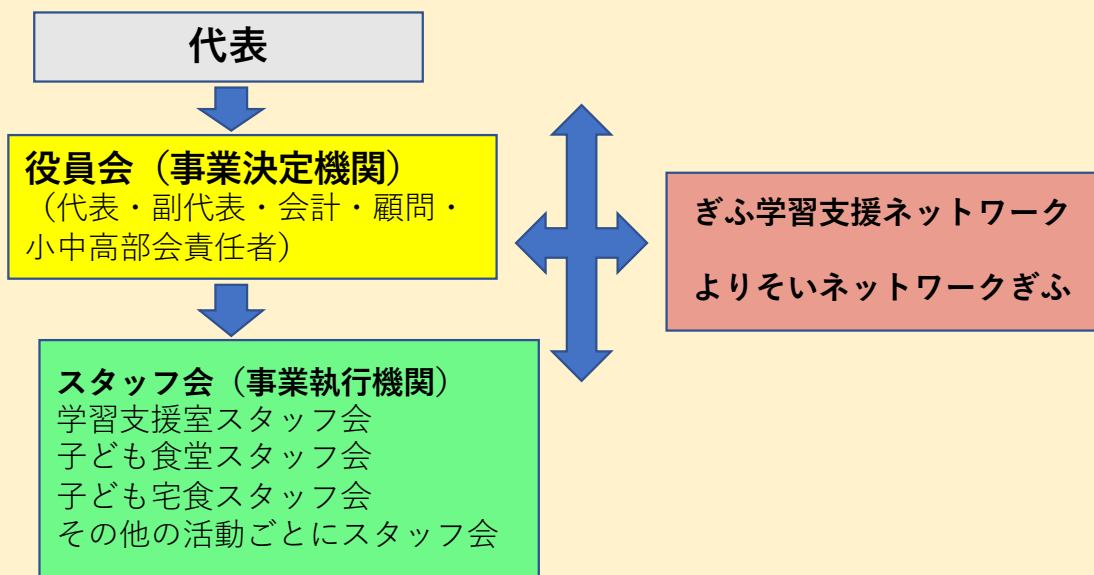
- 対象者：岐阜市が見守りが必要とみなした家庭
- 対象世帯：市内100世帯程度
- 頻度：毎週1回、夕食にお弁当を届ける



見守り活動において抱えている課題

- 資金確保：昨年度は、各事業のために10個の助成金を運用。その手間と負担は大きい。
- 人材確保：役員は、全員が退職教員で高齢。若手の人材育成が喫緊課題。

見守り活動を行う組織体制図



他団体との連携

- (1) 学校・教育委員会
- (2) 自治体関係
 - ①岐阜市：生活福祉課・子ども政策課・子ども支援課・子ども若者総合支援センター・市民協働推進推進政策課・市民活動交流センター・生涯学習センター等
 - ②岐阜県：子ども家庭課・地域福祉課・子ども相談センター・心理療法施設・子ども自立支援施設・少年SOSセンター 等
- (3) 社会福祉協議会
岐阜市社会福祉協議会・岐阜県社会福祉協議会
- (4) 警察・法務相談センター
- (5) ネットワーク
ぎふ学習支援ネットワーク・よりそいネットワークぎふ・子どもの人権ネットワーク・子ども食堂ネットワーク等
- (6) その他の団体
 - ①ぎふNPOセンター
 - ②食糧の寄付で20団体以上（フードバンク・フードドライブも含めて）
 - ③ライオンズクラブ
 - ④ソロプチミスト
 - ⑤企業などからの寄付や支援
 - ⑥民間学習塾

